

第7回 タウンミーティング開催報告

項 目		内 容
日 時	令和8年7月8日 午後4時30分～6時10分	
場 所	鹿背山会館	
対 象	鹿背山区	
参加者数	8人（傍聴 11人）	
概 要	① 開 会 ② 市長あいさつ ③ 鹿背山区の提言 ④ 意見交換 ⑤ 閉 会	
主 な 意見等	・参加者 ・参加者	現在、鹿背山区の人口は5年前と比べて約28％減少。高齢化、人口減少等の課題があるが、課題解決に向けたトップランナーになりたい。鹿背山には、活動を担う「人材」、鹿背山城等の「もの」、北地区の「土地」がある。 地域の課題解決のために、「村興し・村づくり」のモデル地区として名乗りを上げ、先陣を切って取り組む決意をしている。 令和3年度から城山台小学校の学校運営協議会を設置し、鹿背山区民も参加している。また、放課後子ども教室みのりっ子、きずな食堂の運営も鹿背山区民が協力している。 鹿背山会館建設の際には、建設委員として加わった女性は発言ができなかったが、35年経った今、鹿背山の女性が様々な分野に進出している。「鹿背山パワー」、「おせっかいおばさん」を次の世代に繋げて、持続可能な、鹿背山地域共

	• 市 長 同体を作りたい。 鹿背山にはあらゆる団体があり、活動いただいているのがわかる。まちづくりに関わっている住民の割合は市内トップクラスであり、人材の宝庫だと思っている。ここまで顔が見える関係を築けたのは、今までの活動の成果だと思っている。 城山台小学校の児童数が多いことに関してデメリットも言われるが、地域の皆様の御協力により運営できている。市では、今年度、市内の全ての小中学校にコミュニティスクールを導入したところであるが、今後も御協力をお願いする。 • 参加者 鹿背山には、鹿背山城跡、古寺など歴史的価値があるものが多く存在する。 しかし、すべての場所が点在しており、車で行けないこと、知名度が低いこと、お店やトイレがないことなどの課題がある そこで、ＪＲ木津駅と加茂駅の間に２つの駅を新設してはどうか。そして、鹿背山歴史自然公園を作れば、魅力あふれる素敵な鹿背山になるのではないかな。 鹿背山という地域が中心になり、新しい住宅地、団体・企業と歴史豊かな地域をつなぐ架け橋になりたい。 • 市 長 ＪＲ線も、路線によっては存続の危機を迎えている。ＪＲを利用してもらわないといけませんが、ＪＲの利用を促進すると、バスの利用が減ってしまう。市のコミュニティバスも、増便の要望をいただくが、現状維持が限界。一方で、車を持つ若年層の方からは、税金で公共交通を運用することに対する反対意見もあるのが現状である。 木津川市も２０周年を迎えるが、地理的に鹿背山が市の中心になってくる。 • 参加者 鹿背山には、開発された城山台から道路１本隔
--	---

		てると、緑豊かな別世界であること、車に乗ると市街地まですぐに行くことができ、利便性を感じるなど良いところがある、一方で免許返納すると、公共機関・病院・買い物に行くのが困難、バスの本数が少なく、利用しにくい、急こう配の坂道を登るのが負担などの課題もある。 社会福祉協議会鹿背山支部で、サロンやイベントを開催し、約60人参加いただいている回もあるが、年々減少している。 今後自分ができることとして、住民懇談会の開催や若者を巻き込んだ村興し、世代間交流を行い、村の活力を掘り起こしなど考えている。 社会福祉協議会によるサロン、居場所づくりの実施割合は、他市町村に比べて多いと聞いている。福祉施策は、社会福祉協議会の協力がなければ進められない。今後も意見を聞きながら連携していきたい。 若者会議は、市でも立ち上げている。市への提言ではなく、自発的に動いていただいて成果があがっている。地域版があっても良いかもしれない。 過疎化、空き家、高齢化、荒れ地が目立ち始め、以前からずっと焦っており、どうすべきか議論してきた。新興住宅地と旧町の差が、明確になっている。 行政だけの問題ではなく、鹿背山区民として自分たちで、もっと前から議論を白熱化していくべきだった。 木津北地区の害獣も含めて、たくさんの土地を持ちながら方策がない。総合計画に産官学住の連携について記載があるが、実際には連携ができていない。学研都市に企業があり、住民がいるだけ。 木津北地区を有効活用し、大きな公園を設置するだけで十分に人を引き付けることが出来る
	・市 長	
	・参加者	

	のではないか。 • 市 長 学研都市といっても、京都府や国が関わってくるので、難しい部分がある。 木津北地区において、市が所有する土地は5割を超えている。ハイキングコースや公園を作ることができるかもしれない。 木津川市は、全国でも公園が多い方である。人口が減少しているなかで将来の展望として、中心街に来てもらい、買い物、病院等の用事を済ませられるよう、コンパクトにしないといけない。 • 参加者 鹿背山は、高齢者が増えている。社会福祉協議会がサロンやカフェを開催しているが、地域内でも遠方の方は、交通手段がなく参加できない。鹿背山内をコミュニティバスで移動できるようにし、鹿背山分校を活用して、高齢者の居場所づくりをしたい。 今日の話も地域の若者と共有し、面白い案があれば市に報告するので、連携して取組ができればうれしい。 • 市 長 鹿背山婦人会では、毎月1回会議を開催し、意見交換をされている。そのノウハウを教えてください、他の地域に広げていければと思う。 • 参加者 里山だった木津北地区をUR都市再生機構が買収したが、いなかった害獣による被害が増大し、サワガニがいなくなり、自然共生サイトに認定されたが良くなるのか疑問。ボランティア9団体が活動し、全体の2割を整備したが、残りは未整備の状態。 遊歩道を整備したが、市民の方が歩ける状態ではないため、ハイキングコースを作ろうと思っている。 木津川市には、関係課によるプロジェクトチームを設置し、木津北地区をどうするのか考えてほしい。 また、税金を使わないで整備する方法としてか
--	---

	せやまの森をPRし、企業のCSR活動の一環で協力いただけるよう取り組んではどうか。 木津川市の取組には制約があるかもしれないが、かせやまの森の一部を森林公園にし、市民の憩いの場を作れば良い。 木津北地区の開発には相当の費用が必要であり、企業も必ず投資対効果を考えている。かせやまの森をPRし、民間の力を借りて、活性化を図らないといけない。木津川市も、協力していきたい。 御指摘を受けた課題は把握しているが、できないもどかしさもある。
	• 市長 • 参加者 本日の話は、地域への思いを市長に知ってもらうことが根幹にあり、地域にかける熱い思いだと受け取ってほしい。 本日をきっかけに、過疎化対策のモデル地区、トップランナーになりたい。 また、今後も継続して行政参加の話し合いを行い、一緒に過疎化対策をしていきたい。